

男女の活動の現状

1 女性の活躍・国際比較

国の基本的な人間の能力の平均がどこまで伸びたかを測る人間開発指数HDIは10位前後に位置しているのに対し、女性が積極的に経済界や政治活動に参加し意思決定に参加しているかどうかを示すGEMでは40位前後と大きく順位を下げている。

図表 - 1 - 1 GEM・HDIの国際比較

GEM (ジェンダー・エンパワーメント指数)

年度	日本		GEM上位3カ国		
	順位	GEM 値	1位	2位	3位
2005年	43位 / 80カ国中	0.534	ノルウェー 0.928	デンマーク 0.860	スウェーデン 0.852
2004年	38位 / 78カ国中	0.531	ノルウェー 0.908	スウェーデン 0.854	デンマーク 0.847
2003年	44位 / 70カ国中	0.515	アイスランド 0.847	ノルウェー 0.837	スウェーデン 0.831

HDI (人間開発指数)

年度	日本		HDI上位3カ国		
	順位	HDI 値	1位	2位	3位
2005年	11位 / 177カ国中	0.943	ノルウェー 0.963	アイスランド 0.956	オーストラリア 0.955
2004年	9位 / 177カ国中	0.938	ノルウェー 0.956	スウェーデン 0.946	オーストラリア 0.946
2003年	9位 / 175カ国中	0.932	ノルウェー 0.944	アイスランド 0.942	スウェーデン 0.941

注1：GEM ジェンダー・エンパワーメント指数 (Gender Empowerment Measure)

女性が政治及び経済活動に参加し、意思決定に参加できるかどうかを測るもの。国会議員、専門職・技術職、管理職のそれぞれに占める女性割合、男女の推定所得を用いて算出している。

注2：HDI 人間開発指数 (Human Development Index)

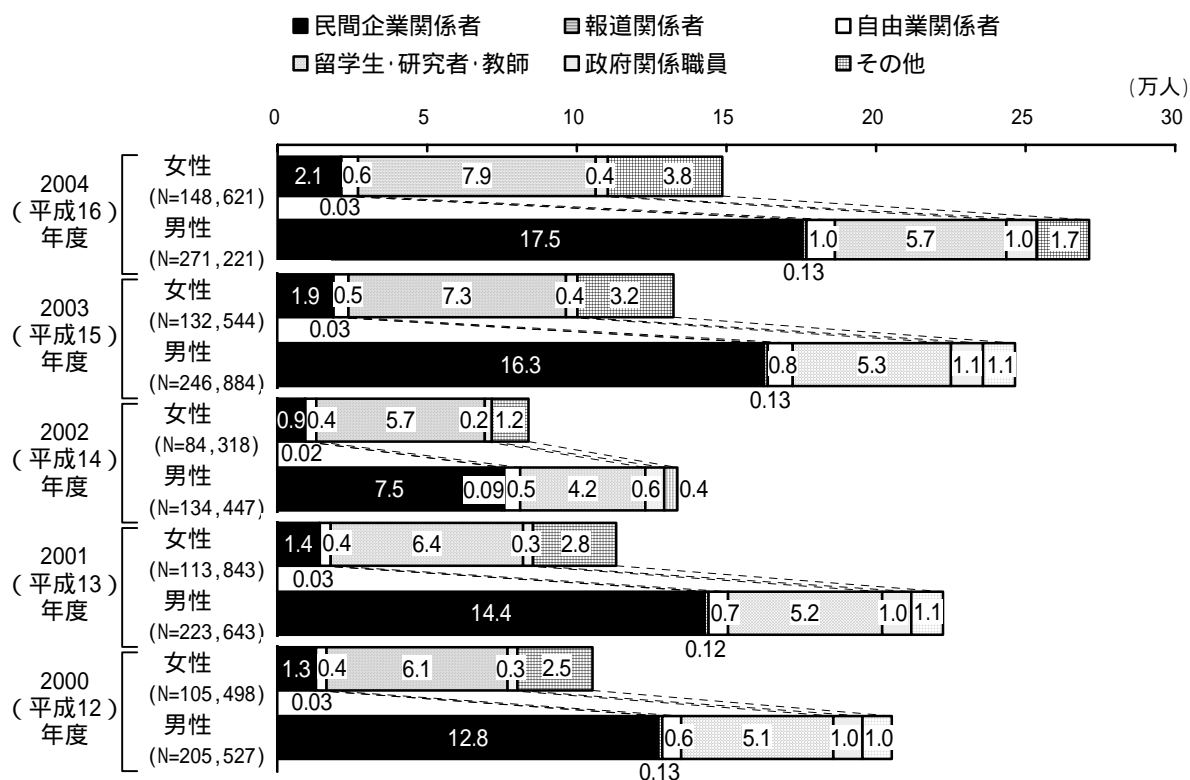
「長寿を全うできる健康的な生活」、「教育」及び「人間らしい生活水準」という人間開発の3つの側面を簡略化した指数。平均寿命、教育水準（成人識字率と就学率）、調整済み一人当たり国民所得を用いて算出している。

資料：国連開発計画 (UNDP) 「人間開発報告書」

2 海外在留邦人数の推移

海外在留邦人数は、「民間企業関係者」では男性が大幅に上回っており、「留学生・研究者・教師」では女性が若干上回っている。平成14年度に一時的な落ち込みがあったものの、全体としては年々増加している。

図表 - 2 - 1 職業別海外在留邦人数の推移



注1：海外在留邦人とは、海外に3ヶ月以上在留している日本国籍を有する者である。3ヶ月以上滞在する意志をもって在留する邦人であれば、調査の時点において滞在期間3ヶ月未満であってもこれに含める。

注2：上記統計は、わが国在外公館が10月1日付け現在で、それぞれの管轄地域（兼轄国及び属領も含む）内に在留する邦人数を調査した結果を集計したものである。

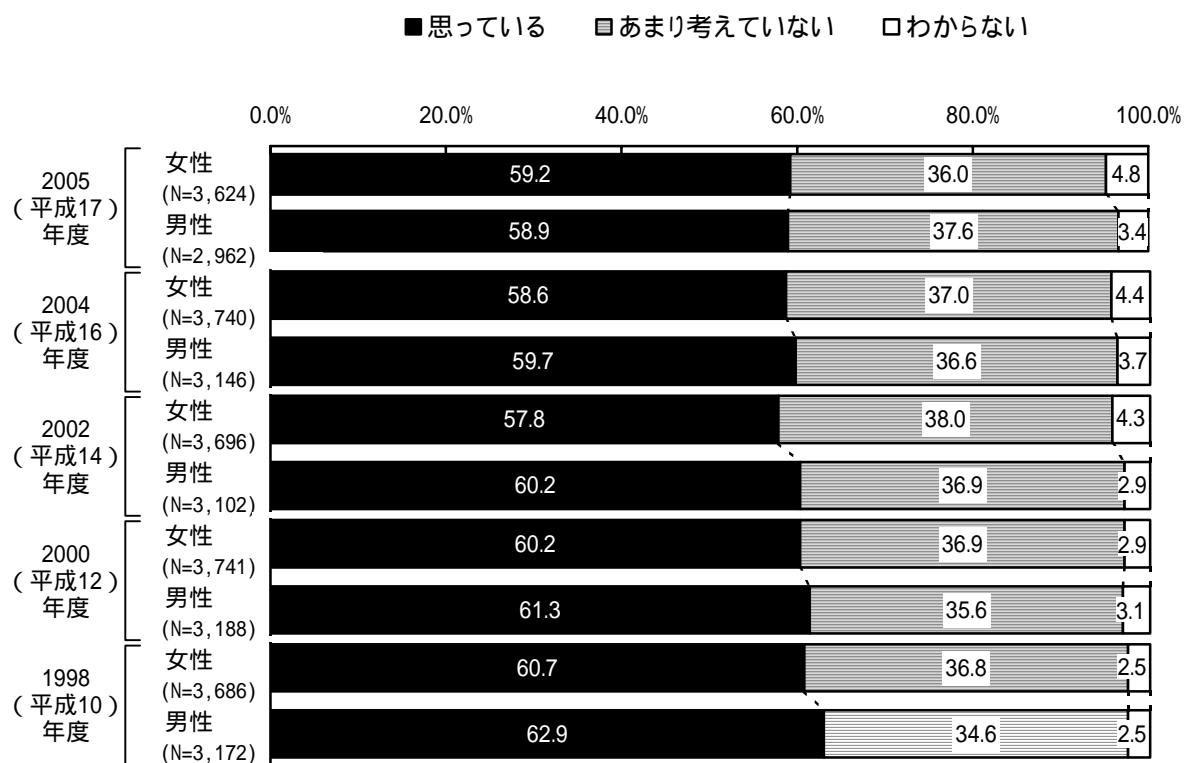
注3：対象は在留届提出者本人であり、同居家族は含まない。

資料：外務省「海外在留邦人数調査統計」

3 社会貢献への意欲

社会貢献への意欲は、平成17年度では社会貢献意識を「持っている」人が男女ともに6割弱となっている。平成10年度調査以来、大きな変化はみられない。

図表 - 3 - 1 社会貢献への意欲（全国）



注：「あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか」の問に対する答え。

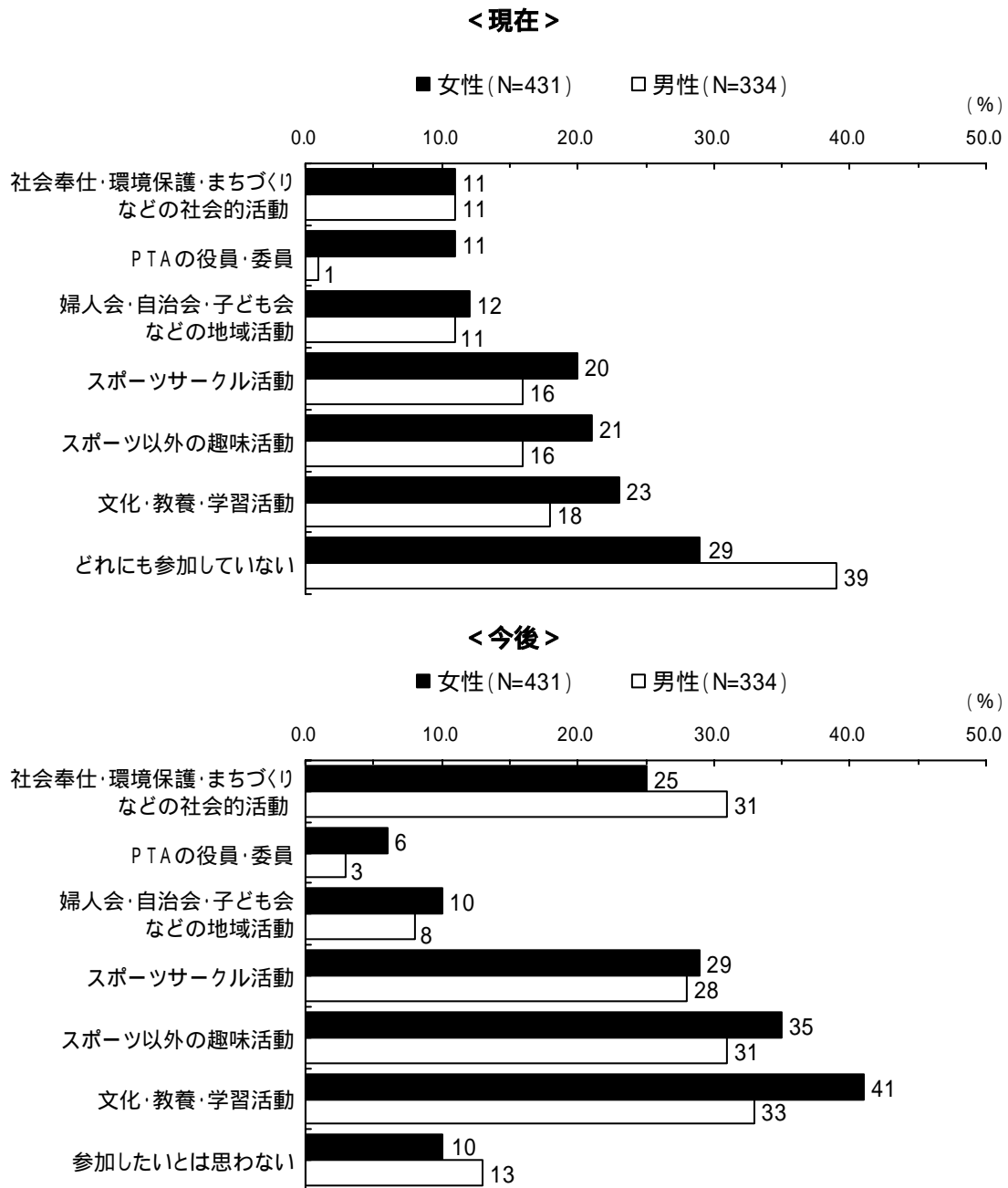
資料：内閣府「社会意識に関する世論調査」

4 社会活動等への参加の状況

社会活動等への現在の参加状況について、現在、仕事以外に家庭の外で活動していることは、男女とも「文化・教養・学習活動」、「スポーツ以外の趣味活動」、「スポーツサークル活動」が高く、2割程度となっている。

今後参加したい活動については、女性のほうが全体的に高い傾向にある。男女別にみると、女性では特に「文化・教養・学習活動」が8ポイント高く、また男性では「社会奉仕・環境保護・まちづくりなどの社会的活動」が6ポイント高くなっている。特に「PTAの役員・委員」においては、男性と比較して女性の活動が顕著である。

図表 - 4 - 1 仕事以外に家庭の外で活動していること（都・複数回答）



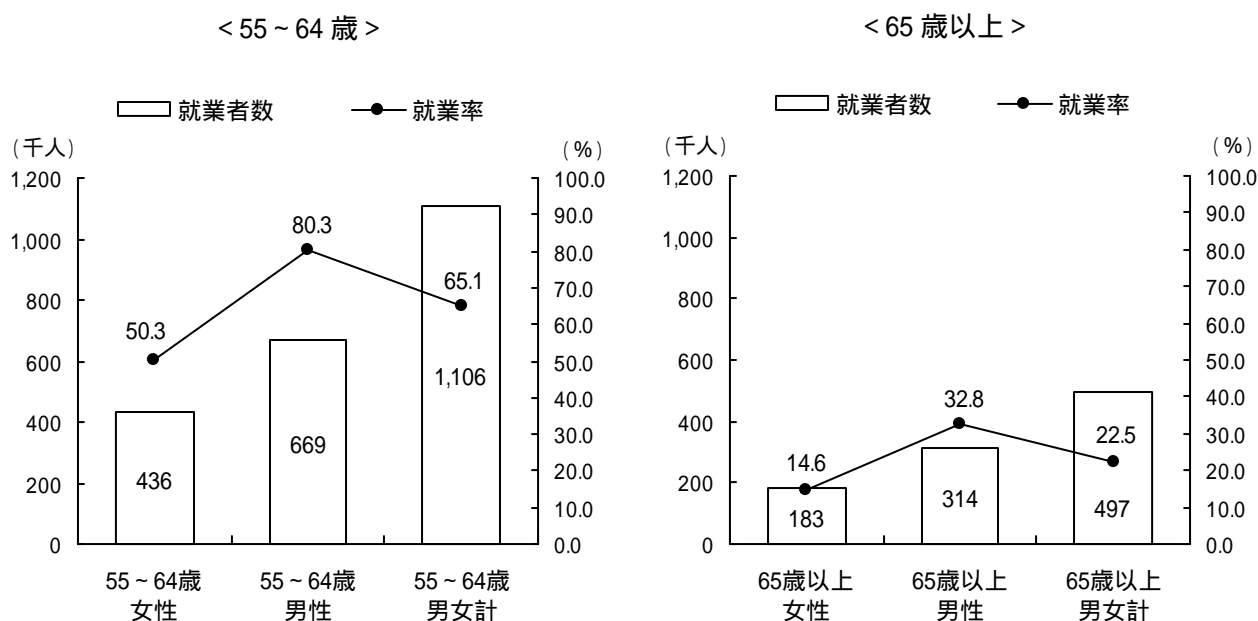
注：「その他」の項目は、男女別が出ていないため掲載していない。

資料：東京都生活文化局「家庭と社会生活に関する都民の意識調査」2005（平成17）年

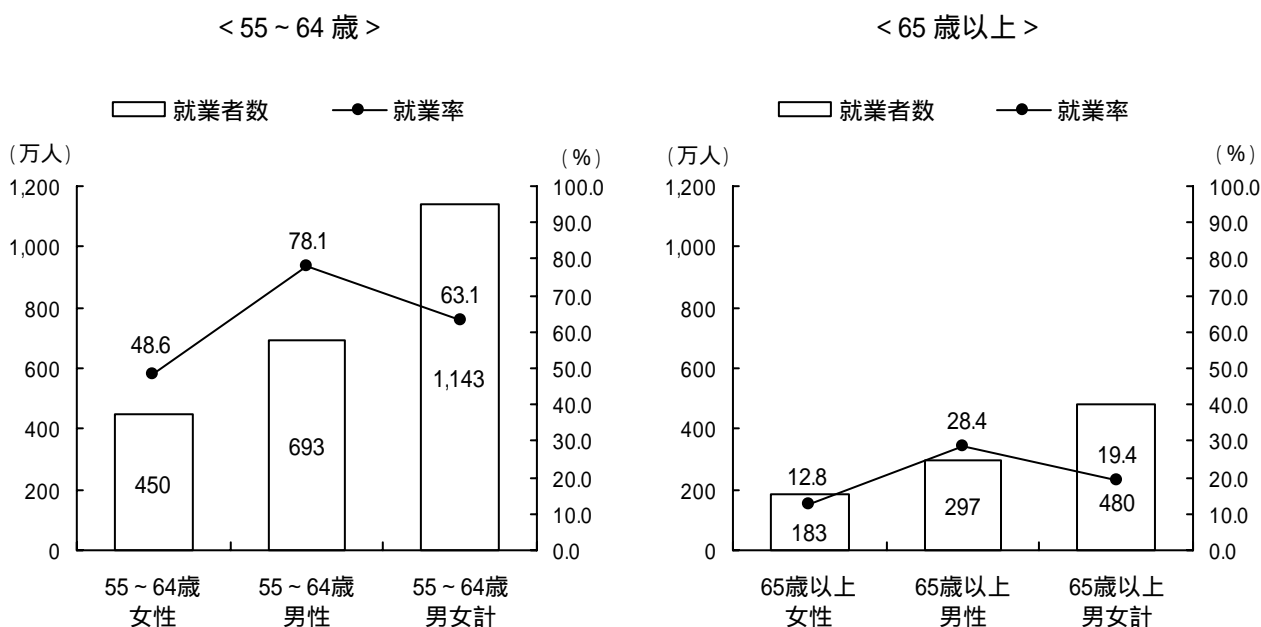
5 高齢者の活動状況

高齢者の就業率では、55～64歳では、都と全国いずれも男性は8割近く、女性は5割近くが働いており、男女計では6割を超えている。
 都と全国就業率を比べると、いずれの年代でも都のほうが男女共に若干高い。

図表 - 5 - 1 年齢別就業率（都）



図表 - 5 - 2 年齢別就業率（全国）



資料：総務省統計局「労働力調査」2004（平成16）年

6 50歳代の活動意向

50～59歳の5年後の働き方への希望は、女性は「どこかの会社や組織でパートなどとして働く」が高く、男性は「どこかの会社や組織で」役員・一般社員・嘱託等で仕事をする項目がいずれも高い。また、「新たに事業を始め、人を雇わずに経営する」が男女ともに一割を超えている。

図表 - 6 - 1 5年後の働き方への希望（都）

■是非やりたい □少しやりたい □どちらでもない □やりたくない □全くやりたくない □無回答



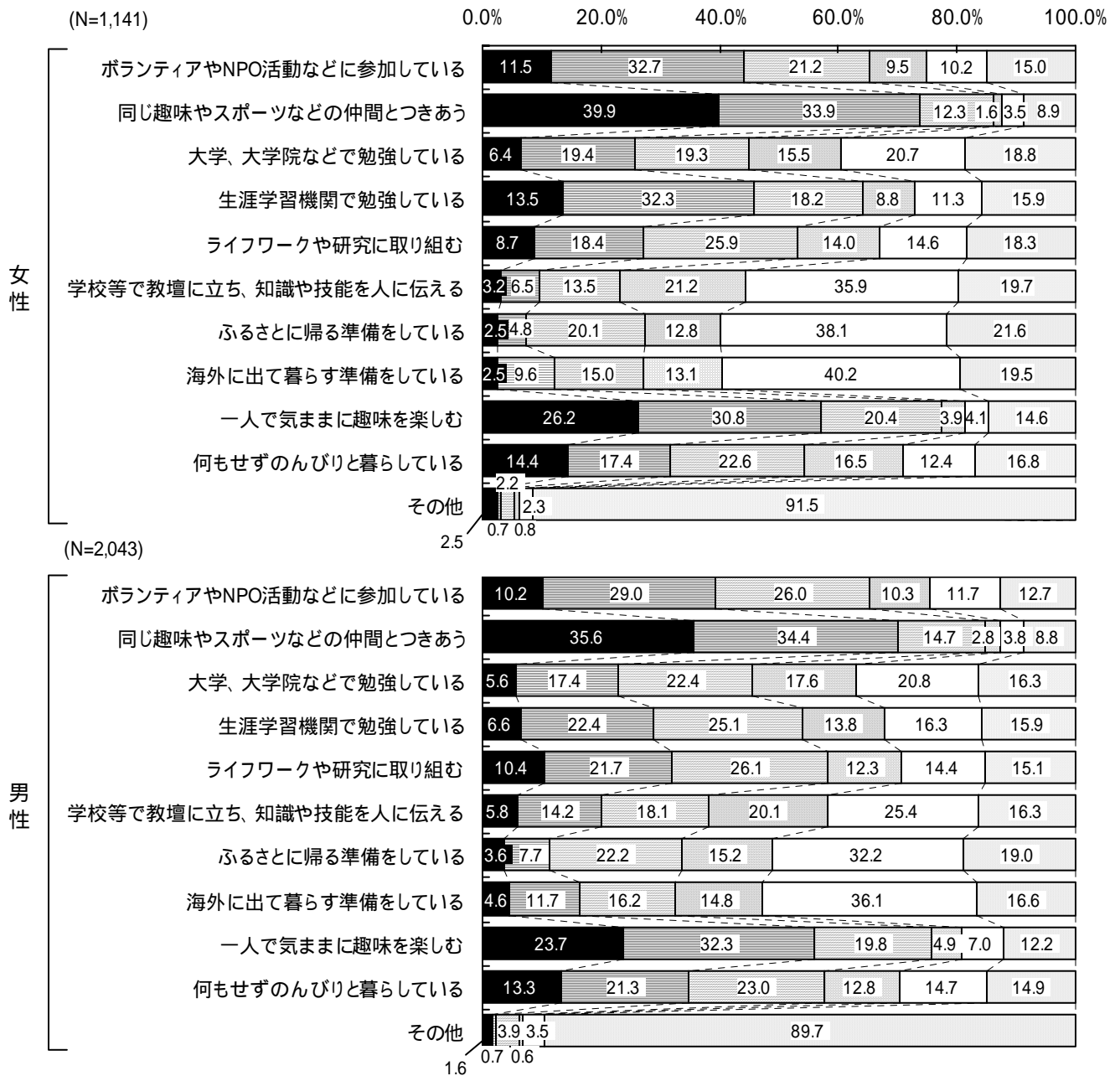
注：対象者は、地域特性を勘案して都内4区1市を選定し、住民基本台帳から平成15年10月1日時点で50～59歳になる住民を無作為抽出している。

資料：東京都産業労働局「退職後の団塊の世代の活用についての調査報告書」2004（平成16）年

50～59歳の5年後の生き方への希望は、「同じ趣味やスポーツなどの仲間とつきあう」「一人で気ままに趣味を楽しむ」が男女共に高くなっている。男女別では、男性が「学校等で教壇に立ち、知識や技能を人に伝える」が比較的高い傾向にある。

図表 - 6 - 2 5年後の生き方への希望（都）

■是非やりたい □少しやりたい □どちらでもない □やりたくない □全くやりたくない □無回答



注：対象者は、地域特性を勘案して都内4区1市を選定し、住民基本台帳から平成15年10月1日時点で50～59歳になる住民を無作為抽出している。

資料：東京都産業労働局「退職後の団塊の世代の活用についての調査報告書」2004（平成16）年